

第1学年音楽科学習指導案

1、題材名

イメージをふくらませながら音楽を楽しもう ― 絵本で広がる音楽の世界―

教材：L.アンダーソン《ワルツィング・キャット》, S.プロコフィエフ《ピーターと狼》より他

2、題材の目標

(1) 音楽科としての目標

- 動物をテーマにした本を楽しんだり、動物のイメージを描きながら音楽を聴いたりすることで、曲想をとらえながら主体的に音楽を聴き、音楽に働きかけようとする心情を育む。

(2) 汎用的スキル

- 絵本と音楽をかかわらせながら聴き、自分と同じようにイメージをふくらませる仲間や、違うイメージを描く仲間の意見を交流しながら音楽のもつ気分を楽しむ。(感性・表現・創造の力)
- 仲間とイメージを共有しながら、音楽に合わせて仲間と身体表現をする。(協働する力)

(3) 態度・価値

- 自分とは違う感じ方をもつ人がいることに気づき、感じ方が違う人と交流することで、より音楽の聴き方が広がっていくよさを感じることができる。(他者に対する受容・共感・敬意)
- 絵本の物語と音楽を関連づけることで、音楽をより身近に感じながら聴く。(愛する心)

3、児童の実態

週1度の図書で子どもたちは、司書からお話を聞いたり、本を借りたりしている。子どもたちにとって司書の先生は、本を紹介してくれる先生として存在している。本校の図書の時間は、専科の時間としてではなく、担任の授業を司書が手厚くサポートをしているというスタイルで行っている。

これまでに1年2組の子どもたちは「たべもの」をテーマにしたブックトーク、「あめ・雨」をテーマにした音楽ブックトークを経験してきている。これらのブックトークを終えてからは、紹介された本を回して読み合ったり、借りたりしていく子どもたちが多くいた。

これまで音楽ブックトークでは教師が音楽を聴く場面で、子どもに話をしたり問いかけたりした。今回も同様に音楽的なところで子どもたちと対話をしながら、音楽を聴く視点を明確にし、また子どもたちが音楽を聴いたことから感じたことを交流する“つなぎて”となることで、子どもたちがより主体的に音楽に関わっていけると考えた。

4、題材について

①教科から見た特性

音楽科では音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出す良さや面白さ、美しさを感じ取ることを鑑賞活動に期待している。ここでは、それぞれの音楽を形づくっている要素と、感じ取ったこととの関わりについて考えるきっかけとして絵本を活用した。また、司書が授業に関わることで、音楽室と図書室という場の広がりを感じ、子どもたちが様々なアプローチで音楽に近づくことができる可能性を感じさせたいと考えた。

本活動では、音楽を絵本のBGMとして機能させるアプローチではなく、動物が登場する本を紹介するのと同じように音楽を紹介することで、音楽そのものに集中して聴けるようにした。

また、動物をテーマにすることで、音楽から動物の様子を想像したり、その動物らしさを音楽に反映させて聴いたりすることで、音楽を形づくっている要素に気づかせることができると考えた。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

物語を通して音楽を聴くことで、音楽から感じるイメージをふくらませることができるだろう。そして、ふくらんだイメージを交流することで、感じ方の違いに気づいたり、自分の感じ方をあらためて見つめたりすることができるよう、対話的なやり取りの中で授業を進めた。また、子どもたちが感じたことを仲間と共有しながら音楽に合わせた身体表現をすることで、音楽を楽しんだり、仲間と協働する良さを感じたりできるようにすることなどを通して、音楽を愛好する心情や、他者に対する受容・共感・敬意を育めると考えた。

5、展開計画と資質・能力を育成する主な手立て（全2時間 本時1/2時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (1時間) 本時	・動物をテーマにした音楽ブックトークを楽しむ	○感性・表現・創造の力 ○他者に対する受容・共感・敬意 ○愛する心	○司書と協働して行う音楽ブックトーク ○音楽を聴いて感じたことを交流する対話的な場
第2次 (1時間)	・音楽を聴きながら仲間と身体表現をする	○協働する力 ○愛する心	○仲間と身体表現をする場づくり

6、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

動物をテーマにした本を楽しんだり、動物のイメージを描きながら音楽を聴いたりすることで、曲想をとらえながら主体的に音楽を聴く。

(2) 本時の展開 ♪音楽鑑賞 ㊦絵本を用いた活動

時間	○学習活動 ・予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 10分	1. 「音楽ブックトーク」に誘う ○ この曲を聴いてどんな気分になるかな？ ♪ 《動物の謝肉祭》よりフィナーレ ・わくわくする ・遊園地みたいで賑やか ・サーカスが始まるよって感じ ㊦ 『つんつくせんせい どうぶつえんにいく』 (読みかせ)	◇ テーマについての想像を楽しめるように提示する ・曲想からどのようなイメージを感じたかを交流し、ブックトークのテーマと音楽をつなぐ手がかりをつかめるようにしたい ◇ お話を楽しめるよう、絵が見えるように提示する ・細かいことを指示せず、お話が進むにつれて子どもたちが物語に入ってこられるようにする
展開Ⅰ 20分	2. 曲想と動物の様子をむすぶ ○ この曲の猫はどんな猫かな？ ♪ 《ワルツィング・キャット》 ・お城にいる猫みたい、だって豪華な感じがしたから ・ふかふかの絨毯の上で踊っていると思う。ゆっくりな曲だからふかふかしている絨毯のイメージがした ・スケートしている猫。(旋律が) 流れるような曲だから、すうっと氷の上を滑っているように感じた ・しっぽが長い猫だと思う。“にゃ～お” って聞こえるところで、猫がなきながらしっぽをくくにゃっとしてるみたいだから ㊦ 『ゴリオとヒメちゃん』(物語紹介) ㊦ 『かちかちやま』(物語紹介) ・たぬきって悪いけど、ウサギの方がもっとひどいと思うなあ ○ これはどんな動物に聞こえるかな？ ♪ 《ピーターと狼》より「狼あらわる」 ・怖い感じがするからトラかなあ ・ホラー映画みたい。だんだん近づいてくる感じがするもの ㊦ 『うさぎのおいしい食べ方』(物語紹介) ㊦ 『赤ずきん』(物語紹介) ㊦ 『おおかみと七ひきのこやぎ』(物語紹介) ㊦ 『どうぶつえんガイド』よりオオカミ (場面提示)	◇ 動物の気持ちや、その動物らしさを引き出す ◇ 音色や旋律、音楽の速さから感じる猫の姿を交流し、曲を聴く手がかりをつかめるようにする ◇ 場面が一転してゴリラがこのあと仲良しの猫のヒメちゃんどうなっていくのだろう、という期待をもてるように紹介する ◇ 動物が悪者としてイメージされるお話を紹介する。とくに悪者としてイメージされているオオカミに焦点が徐々にあたるように本の紹介を進める ◇ 子どもたちと対話をしながら、音色と動物のイメージがつながるようにする。また、音を出している楽器の写真を提示し、より興味をもって聴けるようにする ◆ 曲想と描かれているオオカミの姿をつなげて聴くことでイメージが広がり、音楽を楽しんでいる ◇ 悪者として描かれているオオカミが登場する物語を紹介する ◇ オオカミを紹介する本を提示し、オオカミの本来の姿を知ることができるようにする
展開Ⅱ 15分	3. 物語と音楽をむすんでイメージを広げる ○ やさしいオオカミっていないのかな ㊦ 『ともだちくるかな』(本紹介) ㊦ 『あいつもともだち』(本紹介) ㊦ 『オオカミくんはピアニスト』(読み聞かせ) ♪ 《花のワルツにもとづくパラフレーズ》 ○ オオカミくんは、このあとどのような曲を弾いてあげるのだろうね	◇ 優しい心のオオカミを紹介しつつ、場面から聞こえてきそうな音楽を鑑賞できるようにする ◇ 読み聞かせの流れの中に音楽を入れる ◇ 最後の問いかけのあとは、交流を促さず、それぞれが物語の続きを想像できるようにしたい